

全国常任委員会・高校指導者講習会報告

1月23日(土) 9:30~12:00 13:00~13:45 常任委員会

報告・審議内容

1. 平成27年度全国選抜大会 in 広島について(平井先生・末石先生)
2. 平成28年以降の全国高校選手権の開催(平井先生・西先生・松田先生)

◎ 地域活性化事業としての全国大会の今後と規模適正問題

2016年度~5年間継続、BR会場改修(高校部会費)

補助金減少 広告費増収(見込)のための協力依頼

第54回大会より参加費の値上げ

2016年度より **団体 6000円→10000円**

個人 2000円→3000円

※) AR・BRともに本年度参加人数で日程・射座割限界点

→参加人数の縮減の可能性も要検討

(例) 個人戦を5名→4名 3名→2名など

ただし、補助金縮減のなかで参加人数大幅減少は大会運営に支障(教育委員会)

3. 今後の全国大会の運営・懸案事項について(報告・審議内容)

・熱中症対策

昨年は13名救護室利用 救急車2回要請 →スポットクーラーを導入予定

・参加申し込み

補欠、マネージャー・コーチ等の補助生徒の参加について、申込書に欄を設置
新しい参加申込者には引率者の欄を3名分設ける。

・高体連登録県数

広島県が加盟、兵庫・愛媛が申請、加盟で現在29県。鳥取や山口も準備中
30県になれば全国高体連に申請可能

・運営資金について

- ・5年間計画の補助金消滅後の大会運営

・参加人数に関する様々な意見・今後も検討継続

27年度の全国大会でもAR(特に女子)の参加人数が限界値。今後、参加人数や標的故障等があると運営に支障が出るので、参加人数には注意が必要。

- ・兵庫・愛媛が高体連加盟へ。(現在29県)参加者が3→5に増える県あり。
- ・学校クラブ部が無くてもプライベートで参加する県の増加
- ・参加生徒が減ると競技役員も減少するという問題。
- ・連日AR機械トラブルで1時間弱はずれ込むので、1射群増えることは厳しい。
- ・2階のBR射場の所にAR標的の設置検討の可能性
- ・練習日と試合で計6日間(団体2日、個人4日)でも可能ではないか
- ・ARが1射群増えてもファイナル終了予定時刻に問題ない。(プログラム上)
- ・今後の段階的人数削減の可能性。

- ・全国高体連加盟時点で再度協議の必要性

(変更案の議論)

- ・高体連加盟県の参加者数を現在の5人→4人に減ずる。
- ・削減は予算は厳しい。大会参加費試算。大幅に減った場合は再度調整が必要
- ・関東などは非常にきつい。参加人数を加盟人数で比例にしたら？
- ・参加資格に基準点を設ける その場合基準ラインをどこに引くか
- ・昨年の全国大会データを見て基準点を設けた場合に足切りされる人数

(例) AR 男子 102名参加 560点で約10名
 AR 女子 94名参加 370点で約5名 380点で約20名
 BR 男子 154名参加 500点以下で2名 550点以下で8名
 580以下で34名
 BR 女子 144名参加 360点以下で10名 390点で30名

- ・基準点を採用後は数年間はその基準で実施すべき
- ・1県に1校しか無い県などは点数を正確性の担保
- ・リオ五輪の後でルール変更等の可能性その後に協議
- ・段級審査の基準を採用？

⇒ (結論)

射座数的に厳しい最終日のAR女子は1射群増してもBR男子が終了するまでには競技を終えることができるので、1射群増えても大きな支障はない。

(参考) 27年度の最終日のファイナル時間

BR男子 15:30～16:30

AR女子 13:00～14:00 (1射群増えても2時間程度である)

また、AR男子も9時30分開始を30分早めればトラブルがあっても問題ないのでは。

27年度と同じで基準で行なう方向で。それ以降については継続審議

4. 拡大日韓大会

- ・28年度から6カ国(日本・韓国・台湾・シンガポール・ベトナム・中国)で行なう方向へ。
 - ・AR・DP男女各1チームとする。第1回目は韓国で行なう。
 - ・28年度については他に1チームの参加が認められる。
 - ・高校部会の主管業務から日ラ選手強化委員会へ移行。日韓大会の発展的解消ととらえる。
 - ・日韓大会は終了。選手3名の選考は日ラ選手強化委員会で行なう。
- 日韓大会の要項案は削除。全国選抜大会からは選抜しない。

5. エリートアカデミーの選手の出場枠について

- ・たまたま東京都に籍があるだけであり、学校体育・部活動とは異なる側面。→承認
- ・東京都・関東選抜でエリートアカデミーの選手が代表になった場合、その選手分の枠を拡大する。例えば上位5名の選手を選抜する大会において、上位5名の中にエリートアカデミーの選手1名がいた場合、予選6位の選手も通過させる。2名いれば7位まで通過させ、東京都の選手5名分の枠を確保する。但し、予選会には必ず参加することとする。(同日に出場している他の大会の成績を基に選考はしない。)

6 提案事項

昨年ご逝去された猿谷先生から頂いた寄付の用途として、全国大会のBR個人戦の優勝杯を猿谷杯とし

て個人杯とする提案 男女2つ作成 →承認⇒作成依頼中

7 連絡

・指導用マニュアルを日ラが作成。配付。指導者が読んで、指導して欲しい。

8 平成28年度全国選抜大会について

大会要項作成 主管関東ブロック 神奈川県

9. 選手強化関連（麻植先生・三浦先生）

★日韓大会 選手選考基準とプロセスの見直し

現時点での基準・・・

①全国選抜上位2名（40発・60発、本戦小数点の結果での上位者を選出）

②指定強化選手選考（男女各2名）およびAP選手選考（本年度5月末）

③ブロック大会から上位2名（40発・60発、小数点の結果での上位者を選出）

※「日韓大会・選考会参加申込書」「参加承諾書」の提出義務

④引率および競技役員（高校教員＋協会役員）の選出

⇒次年度より大幅な変更（日韓大会がアジアの他国に対して参加を促す）

各国1チーム（3名参加） 個人戦の結果としての団体戦のデータへ

ただし すでに日本は要項で出場枠を規定しているのもう1チームをオープン参加

⇒ 2018年度から3名選出の方法という大きな課題

競技役員は原則日ラより派遣（オリンピックにむけての審判・競技役員育成の文脈）

顧問の帯同と引率旅費の問題（学校側の責任問題等）

日ラ冊子「平成8年度事業計画」 日韓大会選手選考要項変更

指導者講習会

14:00～17:00 高校指導者研修会Ⅰ

エリートアカデミーの指導の現況と課題

講師 成山悟史・毛塚明善氏

MPA事業と中学・高校生の指導

1月24日（日） 9:00～11:00 高校指導者研修会Ⅱ

高校各種競技会の課題と改善にむけて

射撃部顧問の管理責任

競技会運営等に関する諸問題

高校教員本務（教科指導・校務分掌・各種委員会）との兼ね合い・懸案

他連絡事項（夏期全国委員会での告知事項等）

1. 今後の大会・競技運営

① ドーピング保護者同意書（顧問⇒日ラ事務局保管）

② 競技役員へのご協力 競技役員は白・紺のポロシャツ 大会作成Pシャツ着用

2. 高校記録の報告と集約（新ルール以後のデータ集約）

1) 本戦40発・60発小数点記録

2) ファイナル20発小数点記録

3) 各種競技団体戦記録

⇒GⅢ以上の大会新記録を高校部会に報告

例) 全国・全国選抜・ブロック・ブロック選抜・国体・国体ブロック
岐阜ビーム・東日本など日本協会主催の公式戦の記録も含む

3. 全国大会参加選手エントリー手続きと資格審査の厳密化

● ①各校大会参加申込書（A4版）で提出

②各県代表委員が新規様式「各県団体戦参加校および個人戦参加者リスト」をデータで提出

※上記①②は、広島へのメール送信および学校長印および高体連会長（未加盟県は協会会長公印）を押印し、日本ライフル射撃協会に提出

◎. 次年度指導者講習会 1月28日・29日 沖縄県(予定)